

[年度] 平成22年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] ウメ「南高」ムカデ整枝樹に摘心と摘葉処理を行うと紅着色果実が効率的に多収生産できる

[要約] ウメ「南高」のムカデ整枝は、幼木期の収量性に優れ、摘心処理を加えることで大幅に収量が増加し、さらに果実周辺部へ摘葉処理を実施することにより、若樹齢から紅着色果実が効率的に多収生産できる。

[キーワード] ウメ、ムカデ整枝、摘心、摘葉、紅着色果実

[担当機関名] 果樹試験場うめ研究所 [連絡先] 0739-74-3780

[部会名] 果樹 [分類] 指導

[背景・ねらい]

ウメの紅着色した果実はポリフェノール等の機能性成分に優れ、特に、果面の3割以上が鮮明に着色した「南高」果実は、希少価値から市場で高い評価を受けている。そこで、紅着色果実を若樹齢から効率的に多収生産するため、ムカデ整枝樹（図1）に摘心と摘葉処理を行い、収量性及び紅着色果実の生産効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. ムカデ整枝樹へ春季に新梢の摘心処理を行うと、収量が大幅に増加し、1樹当たり収量は8年生で30kgを超える（図2）。
2. 摘心と摘葉処理を行ったムカデ整枝樹の1樹当たり紅着色果実の比率は、開心自然形樹に比べ約2倍以上高く、収量の約20%を占める（図3）。
3. 摘心と摘葉処理を行ったムカデ整枝樹の樹冠1㎡当たり紅着色果実の生産量は、開心自然形樹に比べ2.7倍以上効率良く生産できる（表1）

[成果の活用面・留意点]

1. ムカデ整枝は、計画的密植栽培を行うため植栽本数が多く、作業性を考慮して園内道を配置した場合、10a当たり80本の植栽本数となる。
2. 枝梢の誘引や徒長枝の剪除等、枝梢管理に時間を要するため、今後、単位面積及び処理時間当たりの経済性評価を検討する必要がある。
3. ムカデ整枝樹形の特徴については平成20年度成果情報を、また、摘心と摘葉処理の方法については平成21年度成果情報をそれぞれ参照のこと。

[具体的データ]

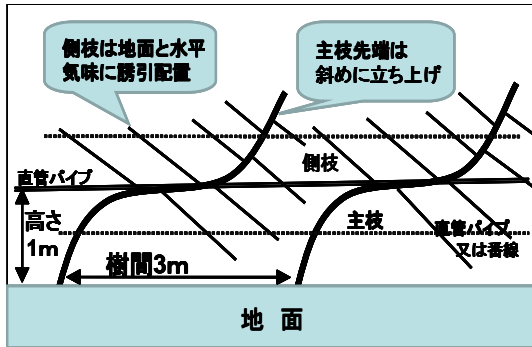


図1 ムカデ整枝樹形の模式図

注) 一年生苗木の先端を1/3程度切り返し、地面に対して60度程度に傾けて定植。
 目標とする樹形は、主枝の長さ3.0~3.5m、側枝は主枝から直接両サイドの水平方向へ約20cm間隔で誘引配置し、長さは1.0~1.5mとする。

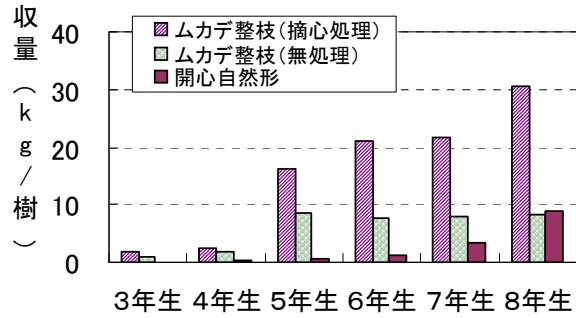


図2 樹形および枝梢管理の違いによる収量の推移

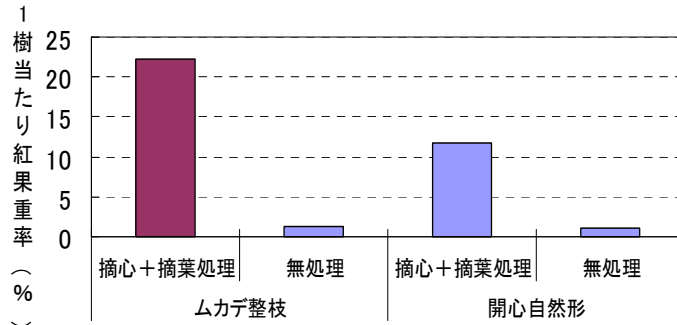


図3 整枝および枝梢管理の違いと1樹当たり紅果実の比率

注) ムカデ整枝は8年生4樹、開心自然形は14年生5樹の平均

表1 整枝法の違いと樹冠1㎡当たり紅果実生産

整枝法 ^z	樹冠面積 (㎡/樹)	紅果実生産量 ^y	
		(kg/樹)	(kg/樹冠1㎡)
ムカデ整枝	9.1	6.4	0.71
開心自然形	21.6	5.7	0.26
有意性	**	ns	*

z: ムカデ整枝は8年生4樹、開心自然形は14年生5樹の平均

y: 紅果実が果面の3割以上が鮮明に紅着色した果実

[その他]

研究課題名: 高機能性うめ果実の安定供給技術開発

予算区分: 地域イノベーションクラスタープログラム都市エリア型(一般)(文科省)

研究期間: 平成21~23年

研究担当者: 竹中正好、根来圭一、大江孝明、古屋挙幸

発表論文等: ウメ‘南高’ムカデ整枝樹への摘心と摘葉処理による紅着色果実の効率的多収生産, 園芸学研究, 第9巻別冊2, 2010

HP掲載の可否: 可